関係団体等ヒアリング　意見のまとめ

【実施時期】2017 年 12 月から 2018 年 2 月

【ヒアリングした団体】

＜保育園・学校＞　みその保育園
祥南小学校、安城中部小学校、二本木小学校
安城西中学校、安祥中学校、篠目中学校

＜日本語教室＞　サルビアにほんごの会、にほんごひろば、さくら日本語の会、
ペイフォワード　※外国人受講者にもヒアリング

＜事業所＞　株式会社ヒサダ（外国人雇用企業）
東洋理工株式会社（技能実習生受け入れ企業）
※外国人従業員・実習生にヒアリング

＜町内会＞　土器田町内会、秋葉町内会（3 月に実施予定）
※外国人住民の世話人にもヒアリング

【ヒアリング項目】　在籍、在住する外国人等の状況
外国人等の対応で工夫していること、課題となっていること
外国人等の暮らしや日本人との交流等に関して気になっていること
多文化共生の取組に対する意見、提案　など

【主な意見・提案など】

＜学校や子どもに関することについて＞

・日本語適応指導教室における指導など、地域の人や大学生などの支援があると助かる。
・日本語適応指導教室に参加することに偏見等を感じることがないようにする必要がある。
・児童・生徒を日本語初期指導教室に参加させるためには、交通手段の確保が必要である。（親が送迎できない児童・生徒は参加できない。）
・日本語初期指導教室は、小中学生のみではなく、就学前児童や高校生も参加できるようにした方がよいと思う。
・子どもの進学・就職に向けて必要なことを、早い時期から保護者に知ってもらう必要がある。
・知的障害や発達障害が疑われる外国人児童・生徒が多い。学校が困った時に相談対応できる態勢があるとありがたい。
・外国人児童・生徒には不登校が多い。外国人コミュニティからも孤立している家庭もあるので、学校だけではなく、地域なども含めた多様なアプローチを考える必要がある。

＜案内表示、日本語表記について＞

・通知手紙や封筒、案内表示においては、多言語化できなくても、ルビふり、ひらがな、ローマ字表記は実施した方がよい。

＜情報提供や困りごとの対応＞

・外国人雇用企業と連携して、外国人市民に情報を伝えてもらう、緊急時や災害時の外国人対応をお願いすることが有効ではないか。

・困った時の相談場所が外国人住民にとってわかりやすくなるとよい。

＜交流やコミュニケーションについて＞

・20 年前に比べると、外国人にとってとても住みやすくなった。市民もやさしくなった。

・片言の日本語の話しでも、しっかり聞いてくれると外国人は嬉しい。

・外国人市民が日本語を話すことができる場、何でも気兼ねなく話せる場、じっくりと 1 対 1 で話を聞いてくれる場が社会や地域にあるとよい。

・ポルトガル語の日常会話を日本人も学ぶことができる機会があるとよいのではないか。

・外国人市民の転入時に、町内会への加入について積極的に案内して欲しい。

・普通のイベントや行事に外国人が気軽に参加できるように広報などの工夫が必要。

＜日本語学習について＞

・日本語教室に対する支援をもっと充実してほしい。

・日本語をより上達したいという外国人に対する学習機会が必要である。

・少人数でもよいので、いろいろな地域で日本語教室を開催できるしくみが作れないか。

・地域の中で、外国人の子どもに対して日本語を教えたり宿題を見たりする教室があるとよい。

・外国人の子育てママの利用も想定した日本語教室や居場所があってもよいのではないか。

＜地域や市民との連携について＞

・通訳や翻訳を機動的に依頼できたり、外国人保護者の話を聞いてもらう役割の人が地域にいるとありがたい。

・外国人との通訳・翻訳やコミュニケーションに協力してもらえる人材が容易に見つけられる仕組みがあるとよい。

・外国人の困りごとのニーズの情報を整理して共有する。その上でボランティアしたい人とマッチングできると効果的ではないか。

・外国人市民やボランティアが常時気軽に立ち寄ることができる場があると、外国人の不安の対応やボランティアの発掘などにつながるのではないか。